

1	<p>理念・方針（関連 カテゴリー1 リーダーシップと意思決定）</p> <p>事業者が大切にしている考え（事業者の理念・ビジョン・使命など）のうち、特に重要なもの（上位5つ程度）を簡潔に記述 （関連 カテゴリー1 リーダーシップと意思決定）</p> <ol style="list-style-type: none">1. お子様が発自的に積極的になり、小学生生活を安心して過ごせるように保護者と一緒になって保育をします。2. お子様及安全に安心して園内での生活を過ごして、健やかな成長ができる保育をします。3. ご家庭で小学校受験を考えている時は、支援ができるようにします。4. 保護者には保育に直接関係ないところに負担をお願いしないようにすることを考えています。5. 従業員が保育に専念でき、公私ともに充実できる環境を作ることを目指します。
2	<p>期待する職員像（関連 カテゴリー5 職員と組織の能力向上）</p> <p>(1)職員に求めている人材像や役割</p> <p>子どもたちに愛情を持って接し、成長を信じていることができる。 学ぶことを忘れず、保育について、コミュニケーション力、なによりも人間性等を向上するために努力する。 保育方針、運営方針を理解し、実践するために周囲の職員と相談しながらよりよい保育を実現するよう業務がこなせる。</p> <p>(2)職員に期待すること(職員に持って欲しい使命感)</p> <ul style="list-style-type: none">・「あなたは愛されている」という心の栄養を保護者と共に伝えていきます。・子どもの安全、情緒の安定した生活、自己を十分に発揮できる環境をつくります。・子どものありのままを受け入れられ、違いを認められ一人ひとりが大切にされていると感じられる保育をします。・本園の特色を生かしながら、日々子どもたちと共に学び実践的な保育をします。・地域社会との連携を活かした運営をします。

事業者が特に力を入れている取り組み①		
評価項目	5-1-4	職員の定着に向け、職員の意欲向上に取り組んでいる
タイトル①	ICT(情報通信技術)などを活用して働きやすい職場環境を整えている	
内容①	職員がそれぞれの力を発揮できる環境を整えるべく、省力化が可能かつ馴染む分野においてICT(情報通信技術)などを積極的に導入し日常的に活用している。職員一人ひとりにパソコン一台を支給し、紙面上(手書き)での書類仕事をなくし、書類にはひな形を用意するなど、事務作業の効率化を図っている。これにより、職員はが子どもや保護者と向き合うためにより多く注力できる。そのほか、写真を印刷できる専用のプリンタ、自動カッティングマシン、刺繍用マシンなど、保育の諸活動の質の維持と省力化を可能とする機器を導入している。	

事業者が特に力を入れている取り組み②		
評価項目	6-1-1	利用希望者等に対してサービスの情報を提供している
タイトル②	ホームページ上から園内の室内環境に触れられる仕組みを整えた	
内容②	コロナ禍という状況下にあつて、在園児の安全・安心の生活を維持しつつ、当園に興味や関心を持つ方の見学ニーズに応じていくために、ホームページ上で見学を行える仕組みを整えた(3D見学)。ページ上の画像を操作することで、園の様子、設備の特色などを見ることが出来る。そしてリニューアル前と同様、ページを通して見学の申込を行うことが出来るようになった。当園の理念や方針、特色を踏まえて見学に訪れる方の割合が高くなり、実際の入園につながりやすいという結果を生みだしている。	

事業者が特に力を入れている取り組み③		
評価項目	1-1-1	事業所が目指していること(理念・ビジョン、基本方針など)を周知している
タイトル③	対処していくべき課題を特定し、新たな理念を明確化した	
内容③	子どもの姿や保護者のニーズを捉え、知育の面においても、保育におけるワークの導入や保護者への精神的なフォローを含めて対応してきた。そして、より就学を意識した取り組みに力を入れていくべく、理念の見直しを行うこととした。そして、就学後を見据えた健やかな育ちを支援し、また、受験に関連する保護者のニーズにも応えていくことを理念として明確化した。当園としてはより一層「選ばれる存在」として自園の価値を打ち出していく方針である。今回明確化された理念は、そのための取り組みの基盤となる。	

I 組織マネジメント項目(カテゴリ1～5、7)

No.	共通評価項目	
	カテゴリ1	
1	リーダーシップと意思決定	
	サブカテゴリ1(1-1)	
	事業所が目指していることの実現に向けて一丸となっている	サブカテゴリ毎の標準項目実施状況 7/7
	評価項目1 事業所が目指していること(理念・ビジョン、基本方針など)を周知している 評点(〇〇)	
	評価	標準項目
	●あり ○なし	1. 事業所が目指していること(理念・ビジョン、基本方針など)について、職員の理解が深まるような取り組みを行っている ○非該当
	●あり ○なし	2. 事業所が目指していること(理念・ビジョン、基本方針など)について、利用者本人や家族等の理解が深まるような取り組みを行っている ○非該当
	評価項目2 経営層(運営管理者含む)は自らの役割と責任を職員に対して表明し、事業所をリードしている 評点(〇〇)	
	評価	標準項目
	●あり ○なし	1. 経営層は、事業所が目指していること(理念・ビジョン、基本方針など)の実現に向けて、自らの役割と責任を職員に伝えている ○非該当
	●あり ○なし	2. 経営層は、事業所が目指していること(理念・ビジョン、基本方針など)の実現に向けて、自らの役割と責任に基づいて職員が取り組むべき方向性を提示し、リーダーシップを発揮している ○非該当
	評価項目3 重要な案件について、経営層(運営管理者含む)は実情を踏まえて意思決定し、その内容を関係者に周知している 評点(〇〇〇)	
	評価	標準項目
	●あり ○なし	1. 重要な案件の検討や決定の手順があらかじめ決まっている ○非該当
	●あり ○なし	2. 重要な意思決定に関し、その内容と決定経緯について職員に周知している ○非該当
	●あり ○なし	3. 利用者等に対し、重要な案件に関する決定事項について、必要に応じてその内容と決定経緯を伝えている ○非該当
	カテゴリ1の講評	
	見直した理念の下、自園の価値をより一層打ち出していく方針である 基本理念や方針を踏まえた職員会議や人材育成を行うことで、それらの職員への浸透を図っている。保護者に対しては、入園時の説明や保護者会などを通して、それらへの理解を図っている。なお、開設以来掲げてきた理念について、保護者のニーズなどを踏まえて見直しを行った。今後は、これらの実現に向けて注力していくとともに、より一層「選ばれる存在」として自園の価値を打ち出していく方針である。	
	方向性を示した上で、職員各自の自主性・主体性の発揮を奨励している 法人レベルでは、代表者が、現場の実情を踏まえつつ、また、外部の知見(社会保険労務士)などを活用しながら、進むべき方向性を定め、着実な進捗を図っている。現場レベルでは、園長が中心となって、行うことの根拠を示し、時に考えさせ、共通理解を踏まえた上で職員各自が自主的・主体的に考え、実行していけるよう取り組んでいる。決定事項の周知・共通は、アプリケーション・ソフトウェアを活用することで、迅速に行うことが出来ている。	

2 カテゴリー2		
事業所を取り巻く環境の把握・活用及び計画の策定と実行		
サブカテゴリー1(2-1)		
事業所を取り巻く環境について情報を把握・検討し、課題を抽出している		サブカテゴリー毎の標準項目実施状況 6/6
評価項目1 事業所を取り巻く環境について情報を把握・検討し、課題を抽出している		評点(OOOOOO)
評価	標準項目	
<input checked="" type="radio"/> あり <input type="radio"/> なし	1. 利用者アンケートなど、事業所側からの働きかけにより利用者の意向について情報を収集し、ニーズを把握している	<input type="radio"/> 非該当
<input checked="" type="radio"/> あり <input type="radio"/> なし	2. 事業所運営に対する職員の意向を把握・検討している	<input type="radio"/> 非該当
<input checked="" type="radio"/> あり <input type="radio"/> なし	3. 地域の福祉の現状について情報を収集し、ニーズを把握している	<input type="radio"/> 非該当
<input checked="" type="radio"/> あり <input type="radio"/> なし	4. 福祉事業全体の動向(行政や業界などの動き)について情報を収集し、課題やニーズを把握している	<input type="radio"/> 非該当
<input checked="" type="radio"/> あり <input type="radio"/> なし	5. 事業所の経営状況を把握・検討している	<input type="radio"/> 非該当
<input checked="" type="radio"/> あり <input type="radio"/> なし	6. 把握したニーズ等や検討内容を踏まえ、事業所として対応すべき課題を抽出している	<input type="radio"/> 非該当
サブカテゴリー2(2-2)		
実践的な計画策定に取り組んでいる		サブカテゴリー毎の標準項目実施状況 3/5
評価項目1 事業所が目指していること(理念・ビジョン、基本方針など)の実現に向けた中・長期計画及び単年度計画を策定している		評点(O●●)
評価	標準項目	
<input type="radio"/> あり <input checked="" type="radio"/> なし	1. 課題をふまえ、事業所が目指していること(理念・ビジョン、基本方針など)の実現に向けた中・長期計画を策定している	<input type="radio"/> 非該当
<input type="radio"/> あり <input checked="" type="radio"/> なし	2. 中・長期計画をふまえた単年度計画を策定している	<input type="radio"/> 非該当
<input checked="" type="radio"/> あり <input type="radio"/> なし	3. 策定している計画に合わせた予算編成を行っている	<input type="radio"/> 非該当
評価項目2 着実な計画の実行に取り組んでいる		評点(OO)
評価	標準項目	
<input checked="" type="radio"/> あり <input type="radio"/> なし	1. 事業所が目指していること(理念・ビジョン、基本方針など)の実現に向けた、計画の推進方法(体制、職員の役割や活動内容など)、目指す目標、達成度合いを測る指標を明示している	<input type="radio"/> 非該当
<input checked="" type="radio"/> あり <input type="radio"/> なし	2. 計画推進にあたり、進捗状況を確認し(半期・月単位など)、必要に応じて見直しをしながら取り組んでいる	<input type="radio"/> 非該当
カテゴリー2の講評		
<p>保護者・職員・地域それぞれの現状を踏まえた課題抽出を行っている</p> <p>保護者とは、日々のコミュニケーションのほか、アプリケーション・ソフトウェアを活用した連絡帳、面談、保護者(懇談)会、行事ごとのアンケートなどを通して、園に対する意向を収集している。職員とは、会議や日々の指導・助言の場面、目標管理的な人材育成の仕組みの一環である面談などを通して、運営についての認識を確認している。こうした取り組みを通して抽出したニーズを踏まえて、園として行っていくべきことの明確化を図っている。</p> <p>予算の執行状況や計画の進捗を管理している</p> <p>一年間の事業上の収入と支出それぞれの見通しを立てた上で、毎月の実績値を反映させながら当初計画の進捗管理を行っている。また、保育実践、人材育成、保護者支援、地域交流などの各分野における一年間の取り組みを全体的な計画に位置づけ、主に年間その他の諸指導計画の実行を通じて実践している。これらを総合して園の事業計画として捉え、実行、検証、再実行のプロセスに則って事業運営を行っている。</p>		

3 カテゴリー3		
3 経営における社会的責任		
サブカテゴリー1(3-1)		
社会人・福祉サービス事業者として守るべきことを明確にし、その達成に取り組んでいる		サブカテゴリー毎の標準項目実施状況 2/2
評価項目1 社会人・福祉サービスに従事する者として守るべき法・規範・倫理などを周知し、遵守されるよう取り組んでいる 評点(〇〇)		
評価	標準項目	
●あり ○なし	1. 全職員に対して、社会人・福祉サービスに従事する者として守るべき法・規範・倫理(個人の尊厳を含む)などを周知し、理解が深まるよう取り組んでいる	○非該当
●あり ○なし	2. 全職員に対して、守るべき法・規範・倫理(個人の尊厳を含む)などが遵守されるよう取り組み、定期的に確認している。	○非該当
サブカテゴリー2(3-2)		
利用者の権利擁護のために、組織的な取り組みを行っている		サブカテゴリー毎の標準項目実施状況 4/4
評価項目1 利用者の意向(意見・要望・苦情)を多様な方法で把握し、迅速に対応する体制を整えている 評点(〇〇)		
評価	標準項目	
●あり ○なし	1. 苦情解決制度を利用できることや事業者以外の相談先を遠慮なく利用できることを、利用者に伝えている	○非該当
●あり ○なし	2. 利用者の意向(意見・要望・苦情)に対し、組織的に速やかに対応する仕組みがある	○非該当
評価項目2 虐待に対し組織的な防止対策と対応をしている 評点(〇〇)		
評価	標準項目	
●あり ○なし	1. 利用者の気持ちを傷つけるような職員の言動、虐待が行われることのないよう、職員が相互に日常の言動を振り返り、組織的に防止対策を徹底している	○非該当
●あり ○なし	2. 虐待を受けている疑いのある利用者の情報を得たときや、虐待の事実を把握した際には、組織として関係機関と連携しながら対応する体制を整えている	○非該当
サブカテゴリー3(3-3)		
地域の福祉に役立つ取り組みを行っている		サブカテゴリー毎の標準項目実施状況 5/5
評価項目1 透明性を高め、地域との関係づくりに向けて取り組んでいる 評点(〇〇)		
評価	標準項目	
●あり ○なし	1. 透明性を高めるために、事業所の活動内容を開示するなど開かれた組織となるよう取り組んでいる	○非該当
●あり ○なし	2. ボランティア、実習生及び見学・体験する小・中学生などの受け入れ体制を整備している	○非該当
評価項目2 地域の福祉ニーズにもとづき、地域貢献の取り組みをしている 評点(〇〇〇)		
評価	標準項目	
●あり ○なし	1. 地域の福祉ニーズにもとづき、事業所の機能や専門性をいかした地域貢献の取り組みをしている	○非該当
●あり ○なし	2. 事業所が地域の一員としての役割を果たすため、地域関係機関のネットワーク(事業者連絡会、施設長会など)に参画している	○非該当
●あり ○なし	3. 地域ネットワーク内での共通課題について、協働できる体制を整えて、取り組んでいる	○非該当

カテゴリー3の講評

職員が遵守すべきルールや保護者が活用できる意見・苦情の解決プロセスを整えている

各種規程類を整備し、職員・福祉に携わる人間として則るべき事柄を明確化している。日頃の保育実践の中での個々の言動のあり方についても、会議や個別の指導などを通して向上を図っている。相談や苦情などの解決については、園長を解決責任者とし、面談・電話・文書などの方法によることとしている。園内には意見箱を設置し、寄せられた声への回答も掲示することとしている。外部の苦情解決第三者委員も活用することが出来る。こうした体制については、入園時の面談の際に案内している。

学生の受け入れに対し積極的な姿勢を持っている

透明性の確保や地域とのつながり作りという面では、将来的な人材育成の観点から、インターンシップの受け入れを行っていく意欲を持っている。これは、外部の企業との協働により、大学2年生や3年生の受け入れを進めていくことを想定している。地域のネットワークとの関わりという面では、市内保育施設の園長会との関わりを維持している。

カテゴリー4		
4	リスクマネジメント	
サブカテゴリー1(4-1)		
リスクマネジメントに計画的に取り組んでいる		サブカテゴリー毎の 標準項目実施状況 1/5
評価項目1 事業所としてリスクマネジメントに取り組んでいる		評点(●●●●●)
評価	標準項目	
○ あり ● なし	1. 事業所が目指していることの実現を阻害する恐れのあるリスク(事故、感染症、侵入、災害、経営環境の変化など)を洗い出し、どのリスクに対策を講じるかについて優先順位をつけている	○ 非該当
○ あり ● なし	2. 優先順位の高さに応じて、リスクに対し必要な対策をとっている	○ 非該当
○ あり ● なし	3. 災害や深刻な事故等に遭遇した場合に備え、事業継続計画(BCP)を策定している	○ 非該当
○ あり ● なし	4. リスクに対する必要な対策や事業継続計画について、職員、利用者、関係機関などに周知し、理解して対応できるように取り組んでいる	○ 非該当
● あり ○ なし	5. 事故、感染症、侵入、災害などが発生したときは、要因及び対応を分析し、再発防止と対策の見直しに取り組んでいる	○ 非該当
サブカテゴリー2(4-2)		
事業所の情報管理を適切に行い活用できるようにしている		サブカテゴリー毎の 標準項目実施状況 4/4
評価項目1 事業所の情報管理を適切に行い活用できるようにしている		評点(○○○○)
評価	標準項目	
● あり ○ なし	1. 情報の収集、利用、保管、廃棄について規程・ルールを定め、職員(実習生やボランティアを含む)が理解し遵守するための取り組みを行っている	○ 非該当
● あり ○ なし	2. 収集した情報は、必要な人が必要ときに活用できるように整理・管理している	○ 非該当
● あり ○ なし	3. 情報の重要性や機密性を踏まえ、アクセス権限を設定するほか、情報漏えい防止のための対策をとっている	○ 非該当
● あり ○ なし	4. 事業所で扱っている個人情報については、「個人情報保護法」の趣旨を踏まえ、利用目的の明示及び開示請求への対応を含む規程・体制を整備している	○ 非該当
カテゴリー4の講評		
<p>緊急時の行動や保護者への情報発信の方法・手段を整えている 事故や怪我の発生状況や原因の分析、予防策の検討などを、所定の書式を用いて行っている。消防署などの協力を得つつ、消火訓練なども行っている。そのほか、災害発生時の避難場所や広域避難場所を定め、保護者にも確認を求めている。緊急配信メールも活用する体制を整えている。火災発生時の対応も明確化し、保護者にも案内している。警戒宣言が発令された場合や地震が起きた場合も、保護者がとることが望ましい行動の指針を示し、園としても引き渡しの体制を整えている。</p> <p>日々の安全対策に力を入れている ハザードマップ上、当園は比較的安全な場所に立地しており、事業継続計画の作成は喫緊の課題とはなっていない。その分、日常的な安全対策には力を入れている。防犯面のほか、施設内部の環境も安全と安全に留意し、日頃から維持管理に取り組んでいる。発生した事例は事故やヒヤリハットなどに分類した上で検証と対応の充実を図っている。些細なことでも迅速に保護者に経緯を知らせている。</p> <p>情報の適切な管理体制を整えている 業務上の多くの書類をソフトウェアを活用してパソコン上で作成・保存しており、組織内での情報の利用・共有と保護のバランスを図る適切な管理を行っている。また、法人・園としてプライバシーポリシーを定め、子ども・保護者に関わる情報の適切な管理のための方針を明確化している。これにより、法令遵守、個人情報保護規程の策定、適性な範囲での情報の取得、情報の目的外利用の禁止、開示請求への対応、情報保護に関する職員研修の実施などの取り組みを宣言している。</p>		

5 職員と組織の能力向上			9/12
サブカテゴリ1(5-1)			
事業所が目指している経営・サービスを実現する人材の確保・育成・定着に取り組んでいる		サブカテゴリ毎の標準項目実施状況	9/12
評価項目1 事業所が目指していることの実現に必要な人材構成にしている		評点(〇〇)	
評価	標準項目		
●あり ○なし	1. 事業所が求める人材の確保ができるよう工夫している		○非該当
●あり ○なし	2. 事業所が求める人材、事業所の状況を踏まえ、育成や将来の人材構成を見据えた異動や配置に取り組んでいる		○非該当
評価項目2 事業所の求める人材像に基づき人材育成計画を策定している		評点(〇●)	
評価	標準項目		
○あり ●なし	1. 事業所が求める職責または職務内容に応じた長期的な展望(キャリアパス)が職員に分かりやすく周知されている		○非該当
●あり ○なし	2. 事業所が求める職責または職務内容に応じた長期的な展望(キャリアパス)と連動した事業所の人材育成計画を策定している		○非該当
評価項目3 事業所の求める人材像を踏まえた職員の育成に取り組んでいる		評点(〇〇●●)	
評価	標準項目		
●あり ○なし	1. 勤務形態に関わらず、職員にさまざまな方法で研修等を実施している		○非該当
○あり ●なし	2. 職員一人ひとりの意向や経験等に基づき、個人別の育成(研修)計画を策定している		○非該当
○あり ●なし	3. 職員一人ひとりの育成の成果を確認し、個人別の育成(研修)計画へ反映している		○非該当
●あり ○なし	4. 指導を担当する職員に対して、自らの役割を理解してより良い指導ができるよう組織的に支援を行っている		○非該当
評価項目4 職員の定着に向け、職員の意欲向上に取り組んでいる		評点(〇〇〇〇)	
評価	標準項目		
●あり ○なし	1. 事業所の特性を踏まえ、職員の育成・評価と処遇(賃金、昇進・昇格等)・称賛などを連動させている		○非該当
●あり ○なし	2. 就業状況(勤務時間や休暇取得、職場環境・健康・ストレスなど)を把握し、安心して働き続けられる職場づくりに取り組んでいる		○非該当
●あり ○なし	3. 職員の意識を把握し、意欲と働きがいの向上に取り組んでいる		○非該当
●あり ○なし	4. 職員間の良好な人間関係構築のための取り組みを行っている		○非該当
サブカテゴリ2(5-2)			
組織力の向上に取り組んでいる		サブカテゴリ毎の標準項目実施状況	3/3
評価項目1 組織力の向上に向け、組織としての学びとチームワークの促進に取り組んでいる		評点(〇〇〇)	
評価	標準項目		
●あり ○なし	1. 職員一人ひとりが学んだ研修内容を、レポートや発表等を通じて共有化している		○非該当
●あり ○なし	2. 職員一人ひとりの日頃の気づきや工夫について、互いに話し合い、サービスの質の向上や業務改善に活かす仕組みを設けている		○非該当
●あり ○なし	3. 目標達成や課題解決に向けて、チームでの活動が効果的に進むよう取り組んでいる		○非該当

カテゴリー5の講評

キャリアパス制度により成長の見通しを示している

キャリアパスの仕組みを整え、正職員、契約職員、パートタイマー・アルバイト職員を含めた成長の見通しを示している。職層を複数の等級に区分けし、各業務の補助、初任者、担当、副主任・専門職リーダー、主任、園長・副園長などの職責に応じた資格要件や勤続年数、資格要件、業務の期待水準などを明確化している。その上で、等級に応じた評価基準を用いて昇給の実施の可否を査定している。これらをかかして全体へ周知し共有を図っていくかは、今後の課題としている。

ICT化を積極的に進め、働きやすい職場環境を整えている

職員一人ひとりにパソコン一台を支給し、紙面上(手書き)での書類仕事をなくし、書類にはひな形を用意するなど、事務作業の効率化を図っている。これにより、職員が子どもや保護者と向き合うためにより多く注力できる環境を整えている。そのほか、写真を印刷できる専用のプリンタ、自動カッティングマシン、刺繍用マシンなど、保育の諸活動の質の維持と省力化を可能とする機器を導入している。省力化がなじむ分野に積極的にICT化を進め、本来業務に力を注げる環境を整えている。

カテゴリー7

7 事業所の重要課題に対する組織的な活動

サブカテゴリー1(7-1)

事業所の重要課題に対して、目標設定・取り組み・結果の検証・次期の事業活動等への反映を行っている

評価項目1

事業所の理念・基本方針の実現を図る上での重要課題について、前年度具体的な目標を設定して取り組み、結果を検証して、今年度以降の改善につなげている(その1)

前年度の重要課題に対する組織的な活動(評価機関によるまとめ)

子どもの姿や保護者のニーズを捉え、知育の面においても精神的なフォローを含めて対応してきた。そして、より就学を意識した取り組みに力を入れていくべく、理念の見直しを行うこととした。そして内部での検討を経て、就学後を見据えた健やかな育ちを支援し、また、受験に関連する保護者のニーズにも応えていくことを理念として明確化した。

<p>目標の設定と取り組み</p>	<ul style="list-style-type: none"> <input checked="" type="radio"/> 具体的な目標を設定し、その達成に向けて取り組みを行った <input type="radio"/> 具体的な目標を設定したが、その達成に向けて取り組みが行われていなかった <input type="radio"/> 具体的な目標が設定されていなかった
<p>取り組みの検証</p>	<ul style="list-style-type: none"> <input checked="" type="radio"/> 目標達成に向けた取り組みについて、検証を行った <input type="radio"/> 目標達成に向けた取り組みについて、検証を行っていなかった(目標設定を行っていなかった場合も含む) <input type="radio"/> 設立後間もないため、前年度の実績がなく、評価対象外である
<p>検証結果の反映</p>	<ul style="list-style-type: none"> <input checked="" type="radio"/> 次期の事業活動や事業計画へ、検証結果を反映させた <input type="radio"/> 次期の事業活動や事業計画へ、検証結果を反映させていない <input type="radio"/> 設立後間もないため、前年度の実績がなく、評価対象外である

評価項目1で確認した組織的な活動や評語の選択に関する講評

打ち出された理念は、以前のものと比較して、特定の課題をより強く意識したものとなっている。これは、当園の実際の経験を踏まえて生まれたもので、今後の取り組みの方向性を指し示すものでもある。当園としてはより一層「選ばれる存在」として自園の価値を打ち出していく方針である。今回明確化された理念は、そのための取り組みの基盤となる。

評価項目2

事業所の理念・基本方針の実現を図る上での重要課題について、前年度具体的な目標を設定して取り組み、結果を検証して、今年度以降の改善につなげている(その2)

前年度の重要課題に対する組織的な活動(評価機関によるまとめ)

コロナ禍という状況下において、在園児の安全・安心の生活を維持しつつ、当園に興味や関心を持つ方の見学ニーズに応えていくことを課題として設定し、その解決のためにホームページ上で見学を行える仕組みを整えた(3D見学)。ページ上の画像を操作することで、園内の様子、設備の特色などを見ることが出来る。そしてリニューアル前と同様、ページを通して見学の申込を行うことが出来るようになった。

目標の設定と 取り組み	<input checked="" type="radio"/> 具体的な目標を設定し、その達成に向けて取り組みを行った <input type="radio"/> 具体的な目標を設定したが、その達成に向けて取り組みが行われていなかった <input type="radio"/> 具体的な目標が設定されていなかった
取り組みの検証	<input checked="" type="radio"/> 目標達成に向けた取り組みについて、検証を行った <input type="radio"/> 目標達成に向けた取り組みについて、検証を行っていなかった(目標設定を行っていなかった場合も含む) <input type="radio"/> 設立後間もないため、前年度の実績がなく、評価対象外である
検証結果の反映	<input checked="" type="radio"/> 次期の事業活動や事業計画へ、検証結果を反映させた <input type="radio"/> 次期の事業活動や事業計画へ、検証結果を反映させていない <input type="radio"/> 設立後間もないため、前年度の実績がなく、評価対象外である

評価項目2で確認した組織的な活動や評語の選択に関する講評

ウェブ上の見学の仕組みを整えることで、当園の理念や方針、特色を踏まえて見学に訪れる方の割合が高くなり、実際の入園につながりやすいという結果を生みだしている。ソーシャルネットワークサービス(SNS)を活用した園の日々の様子の発信も、見学前に園の状況を知る上で功を奏している。見学者のニーズに応えると同時に、見学対応自体の内容の充実にもつなげることが出来ている。

Ⅲ サービスの実施項目(カテゴリ-6-4)

		サブカテゴリ-4	
サービスの実施項目		サブカテゴリ毎の標準項目実施状況	
		36 / 36	
1 評価項目1 子ども一人ひとりの発達の状態に応じた保育を行っている			
評点(〇〇〇〇〇〇)			
評価	標準項目		
● あり ○ なし	1. 発達の過程や生活環境などにより、子ども一人ひとりの全体的な姿を把握したうえで保育を行っている		○ 非該当
● あり ○ なし	2. 子どもが主体的に周囲の人・もの・ことに興味や関心を持ち、働きかけることができるよう、環境を工夫している		○ 非該当
● あり ○ なし	3. 子ども同士が年齢や文化・習慣の違いなどを認め合い、互いを尊重する心が育つよう配慮している		○ 非該当
● あり ○ なし	4. 特別な配慮が必要な子ども(障害のある子どもを含む)の保育にあたっては、他の子どもとの生活を通して共に成長できるよう援助している		○ 非該当
● あり ○ なし	5. 発達の過程で生じる子ども同士のトラブル(けんか・かみつき等)に対し、子どもの気持ちを尊重した対応をしている		○ 非該当
● あり ○ なし	6. 【5歳児の定員を設けている保育所のみ】 小学校教育への円滑な接続に向け、小学校と連携を図っている		○ 非該当
評価項目1の講評			
<p>発達の経過を詳細に記録し、保護者と共有して指導計画に反映している</p> <p>新入園児については児童票や個別面談で得た情報、在園児についてはそれらに加えて日々の様子を捉えた記録などをもとに、発達の過程や生活習慣を十分に把握し、保育計画の内容や子どもの接し方につなげている。全職員が全園児を対象にチェック項目に沿って発達を毎月確認し、計画に基づく保育の実践と子どもの様子を経過記録としてまとめ、共有している。保護者には個人面談や日常の対話などを通して発達状況を伝えて共有している。そして、月年齢ごとの発達課題に沿った活動を指導計画に反映できるようにしている。</p> <p>子ども同士のかかわりを通して育つ姿がある</p> <p>様々な個性を持つ子どもも出来るだけ受け入れ、子ども同士が互いの違いを認め合えるように、家庭的な愛を持って保育にあたっている。こうした環境の中、友達のできない事を手伝うなど、思いやりのある子どもに育てている。心の行き違いによるトラブルは人間関係の土台を作る上で大切な機会であると捉え、怪我につながる前にそれぞれの気持ちを尊重しわかりやすい言葉で伝え、解決に導いている。</p>			

2 評価項目2		子どもの生活が安定するよう、子ども一人ひとりの生活のリズムに配慮した保育を行っている		評点(〇〇〇〇)
評価	標準項目			
● あり ○ なし	1. 登園時に、家庭での子どもの様子を保護者に確認している			○ 非該当
● あり ○ なし	2. 発達の状態に応じ、食事・排せつなどの基本的な生活習慣の大切さを伝え、身につくよう援助している			○ 非該当
● あり ○ なし	3. 休息(昼寝を含む)の長さや時間帯は子どもの状況に配慮している			○ 非該当
● あり ○ なし	4. 降園時に、その日の子どもの状況を保護者一人ひとりに直接伝えている			○ 非該当
評価項目2の講評				
<p>登園時の対話を大切に、子どもの様子を把握し、その日の保育実践につなげている</p> <p>登園時は玄関で子どもを預かり、体調や家庭での様子、伝達事項を確認している。対話をしながら健康観察を行い、気になる事はその場で保護者に確認している。得られた情報は記録して職員間で共有している。保護者を送り出した後は職員が子どもの検温を行い、全身状態を確認し、湿疹や怪我、皮膚の状態等を記録している。体調が気になる場合は活動内容を調整し、水分補給や検温などを行い、様子を観察し、必要に応じて保護者に連絡している。睡眠が不足している場合は食後早めに入床し、0歳児は子どもの生活リズムに合わせて午前寝・午睡を提供している。</p> <p>子どもの生活習慣習得、生活自立に向け、発達を意識して確実に取り組んでいる</p> <p>保育の基本である生活習慣の習得や生活自立に力を入れている。子ども一人ひとりの発達状況を詳細に把握し、個性や発達の進行を見極め、無理強いを避けて自然な興味の広がりにつなげ、生活の各場面において必要な力を意欲的に培っていけるように取り組んでいる。時には大人が見本を示し、また段階を追って徐々に自分で出来るようになるよう、様々な援助を工夫している。同時に、保護者と歩調を合わせ、園と家庭とでともに子どもの育ちを支えている。</p> <p>降園時には子ども一人ひとりの園生活を丁寧に伝えている</p> <p>降園時には、子どもの体調、(あった場合は)怪我の状況、食事・排泄・睡眠などの状況のほか、生活・活動の中で見られる子どもの成長を感じさせる姿などを保護者に伝えている。玄関には子どもの作品を掲示し、またアプリケーションソフトを活用して活動の様子を配信している。子ども同士の心の行き違いについても必ず報告し、発達を踏まえて説明を加えている。保護者から子育てに関する不安や悩みが寄せられた場合は、園長の助言を踏まえた返答や同意を心がけ、保護者の心の揺れに寄り添っている。</p>				
3 評価項目3		日常の保育を通して、子どもの生活や遊びが豊かに展開されるよう工夫している		評点(〇〇〇〇〇〇)
評価	標準項目			
● あり ○ なし	1. 子どもの自主性、自発性を尊重し、遊びこめる時間と空間の配慮をしている			○ 非該当
● あり ○ なし	2. 子どもが人と関わる力を養えるよう援助している			○ 非該当
● あり ○ なし	3. 子ども一人ひとりの状況に応じて、言葉に対する感覚を養えるよう配慮している			○ 非該当
● あり ○ なし	4. 子どもが様々な表現を楽しめるようにしている			○ 非該当
● あり ○ なし	5. 子どもの心身の発達が促されるよう、戸外・園外活動(外気浴を含む)を実施している			○ 非該当
● あり ○ なし	6. 生活や遊びを通して、子どもが自分の気持ちを調整する力を育てられるよう、配慮している			○ 非該当
評価項目3の講評				
<p>異年齢を含む子ども同士のかかわりの中で育ちを援助している</p> <p>ワンフロアという条件を活かして、雰囲気や声を感じ合う環境を提供している。各年齢で過ごす時間を大切にしつつ、1・2歳児と3・4・5歳児でそれぞれ異年齢での活動や、園全体での交流を取り入れている。これらの経験を通して子ども同士の育ち合いを援助している。絵本や玩具は子どもの手の届く場所に設定し、発達や好みを意識して入れ換えている。図書館のリサイクル本も有効活用している。3歳児以上になると図書館を利用し、また子ども同士の話し合いを経験し、当番活動として朝の会の進行やプランターへの水やり、お手伝いなども行っている。</p> <p>日々の活動を通して、言葉、感性、表現力、創造力を育てている</p> <p>子どもが身に着ける言葉は大人が手本となるべきと考え、美しい日本語に囲まれて過ごせるようにしている。また、隔週で英語に触れる時間を設けている。そのほか、絵本の読み聞かせに加え、紙芝居、手遊び、しりとり等の言葉遊びも日々取り入れている。月の歌は年間で決められた曲を基本としつつ、子どもの姿や興味に合わせて朝の会で歌っている。鈴やかスタネット、ピアノ等にも触れ、表現する楽しさを経験している。楽しさを経験する中で豊かな言葉や音に触れ、感性を養っている。</p> <p>戸外での活動を通して四季の変化や自然に触れている</p> <p>年間を通して戸外活動を積極的に取り入れている。思い切り身体を動かす中で四季の風を身体一杯に受けとめ、木々や草花、虫や木の実、生き物等に触れ、愛でている。園庭にはクライミングウォールを設置し、身体能力の発達を促している。また、プランターを利用し野菜の栽培を行い、水やり等の役割を子どもが担っている。気持ちの調節という面では、譲り合う、順番を守る、相手の気持ちに気づく・想う、時間の流れを意識して場面を転換するなどの体験を通して、徐々に出来るようになっていくことを援助している。</p>				

4 評価項目4 日常の保育に変化と潤いを持たせるよう、行事等を実施している		評点(〇〇〇)
評価	標準項目	
● あり ○ なし	1. 行事等の実施にあたり、子どもが興味や関心を持ち、自ら進んで取り組めるよう工夫している	○ 非該当
● あり ○ なし	2. みんなで協力し、やり遂げることの喜びを味わえるような行事等を実施している	○ 非該当
● あり ○ なし	3. 子どもが意欲的に行事等に取り組めるよう、行事等の準備・実施にあたり、保護者の理解や協力を得るための工夫をしている	○ 非該当
評価項目4の講評		
<p>子どもの興味や関心を刺激し、子どもが中心となって楽しめる季節行事を実施している</p> <p>行事では子どもが主役になり、絵本や紙芝居、制作等の導入プログラムでワクワク感を刺激し、当日は行事食も提供し楽しんでいる。入園・進級おめでとう会では新しい友だちとの出会いを、春の親子遠足では動物園での体験を楽しんでいる。親子でのじゃがいも掘り、笹に願いを込めて飾りつけをする七夕の集い、お泊り保育ではカレーライス作り、花火を楽しんだ。敬老の日、親子運動会、さつまいも掘り、人参掘り、新年おめでとう会、節分、発表会、卒園式等、コロナ禍という状況下でも工夫し、時節ごとの行事を取り入れている。</p> <p>子どもが助け合い、創り上げ、達成を実感できるような行事に取り組んでいる</p> <p>例年であれば夕涼み会では地域の子育て家庭も招待し、親子の交流を視野に様々な遊びのコーナーや踊りを楽しんでもり、再開が待ち遠しい。毎月の制作は玄関に掲示し、互いに作品を鑑賞できるようにしている。「まち探検マップ」は、保育者が作成した地図をもとに子どもが作り上げていくもので、3歳児以上がグループに別れて近隣を探検し、公共機関や商店、公園等を記載している。そのほか、発表会に向けて劇の役決めにも子どもが参加し、背景作りに協力し、「練習したい」という意欲を大切に準備を進めている。</p> <p>保護者と園が理解・協力して子どもの思い出に残る年間行事に取り組んでいる</p> <p>保護者と園が協力して子ども中心の行事に取り組んでいる。近隣の体育館で行った親子運動会は家族の参加人数に上限を決めず祖父母等も参加し、子どもの育ちを共有すると共に一緒に身体を動かす楽しさを味わう機会となった。大道具等の物品の搬入・搬出を保護者が協力してくれている。また、じゃがいもをはじめ野菜の収穫体験を親子で経験する機会を計画している。春の親子遠足では保護者の特製お弁当を願ひし、親子の触れ合いを大切にしている。保護者会はコロナ禍という状況下で工夫しながら年3回開催している。</p>		
5 評価項目5 保育時間の長い子どもが落ち着いて過ごせるような配慮をしている		評点(〇〇)
評価	標準項目	
● あり ○ なし	1. 保育時間の長い子どもが安心し、くつろげる環境になるよう配慮をしている	○ 非該当
● あり ○ なし	2. 保育時間が長くなる中で、保育形態の変化がある場合でも、子どもが楽しく過ごせるよう配慮をしている	○ 非該当
評価項目5の講評		
<p>子どもの気持ちを大切に受け止め、安心して寛げる楽しい園生活を提供している</p> <p>朝夕ともクラスが揃うまで、年齢構成に配慮し異年齢による段階的な合同保育を実施している。自由あそびやコーナー保育を基本に、子どもの声を聴き、ブロックや粘土、絵本、人形、車・電車、お絵描き、ままごと等の見立て遊び等を行っている。乳児が幼児に甘え、上手な遊びを教え楽しみ、片付けを手伝う等子どもの世界が繰り広げられている。子どもの意見を取り入れて夏は夕方も園庭で過ごしている。室内は常に温度や湿度を管理し、安全な空間を確保している。</p> <p>子どもが安心して保護者を待てる時間と環境を提供している</p> <p>子どもが落ち着いて保護者を待てる時間と環境に配慮している。抱っこ等スキンシップを多くとり、疲れた時は横になれる環境も整えている。空腹は淋しさを感じる事から、迎えが18:30を過ぎる場合は補食を提供している。パン・ご飯類・麺類・芋類等の腹持ちの良い物にし、夕食は「家族の大切な団らんの時間」として家庭の食事を大切に考え、園での提供は控えている。そのほか、小さいサイズのブロックやビーズ等遅番専用の玩具も用意し、発達に合わせて提供している。</p>		

6 評価項目6 子どもが楽しく安心して食べることができる食事を提供している		評点(〇〇〇〇)
評価	標準項目	
● あり ○ なし	1. 子どもが楽しく、落ち着いて食事をとれるような雰囲気作りに配慮している	○ 非該当
● あり ○ なし	2. メニューや味付けなどに工夫を凝らしている	○ 非該当
● あり ○ なし	3. 子どもの体調(食物アレルギーを含む)や文化の違いに応じた食事を提供している	○ 非該当
● あり ○ なし	4. 食についての関心を深めるための取り組み(食材の栽培や子どもの調理活動等)を行っている	○ 非該当

評価項目6の講評

子どもが食を楽しみ、献立や食べることに興味を持てるよう取り組んでいる

毎日の給食は、子どもが食に興味を示し、楽しめるものとなるよう、栄養士が工夫を凝らし献立を作成し提供している。「様々な食材を食べてほしい」という考えから、苦手なものも一口は頑張ってみることも大切にしている。食材は旬を意識したものを取り入れ、彩りや食感、香りなどにも配慮している。日頃の子どもの様子などから子どもが喜ぶ献立にすることもある。

子どもが積極的に食を取り入れ、自身の身体に役立つ事、食は命を理解吸収している

年間計画に基づいて各年齢に応じて食に対する関心を育み、必要なマナーを身に付ける活動を行っている。プランターを活用して季節の野菜を栽培し、様子の観察や水やりなどを行うことで、興味や生長への期待を抱いている。収穫した野菜は調理活動に活かしている。また、毎日の食事を通して、食事の前後の挨拶、姿勢、食具の適切な使い方、バランスの良い食べ方など、必要な力を育んでいる。なお、離乳食の献立は個別に作成し、食物アレルギーのある場合は医師の指示書をもとに除去食で対応している。

7 評価項目7 子どもが心身の健康を維持できるよう援助している		評点(〇〇〇〇)
評価	標準項目	
● あり ○ なし	1. 子どもが自分の健康や安全に関心を持ち、病気やけがを予防・防止できるように援助している	○ 非該当
● あり ○ なし	2. 医療的なケアが必要な子どもに、専門機関等との連携に基づく対応をしている	○ 非該当
● あり ○ なし	3. 保護者と連携をとって、子ども一人ひとりの健康維持に向けた取り組み(乳幼児突然死症候群の予防を含む)を行っている	○ 非該当
● あり ○ なし	4. 子どもの入退所により環境に変化がある場合には、入所している子どもの不安やストレスが軽減されるよう配慮している	○ 非該当

評価項目7の講評

子ども自身が安全な生活を身をもって理解し、快適な生活を継続させている

子ども自身が危険に気づき、安全に生活できる力が身につくよう援助している。散歩では、目的に応じて散歩ロープを用いる、手繋ぎ歩行を行う、車のよけ方や信号の見方・渡り方などを学ぶなどしている。コロナ禍以前からも登園時や排泄後、おやつや給食の前、外遊び後には手洗いを励行している。1歳児からはうがいも行い、歯みがきは0歳児から始めている。そのほか、室内の温度・湿度の適切な管理や換気などにより安全かつ衛生的で安心して過ごせる環境維持に努めている。

健康的な日常生活を支えるため専門機関と連携している

医療機関との連携や日々の保育環境の整備により、子どもの健康の維持を援助している。嘱託医による内科健診を定期的に受けるほか、身長・体重、頭囲・胸囲を毎月測定している。これらの結果を保護者と共有している。また、保育室の床には足触りの良い素材を用いた床暖房を設置して冬場でも快適な環境を維持している。室内各所の突起のある部分にはクッション材を用いて怪我の防止を図っている。

日々子どもの体調管理に努め保健情報を提供し、子どもの環境変化に対応している

体温や食事量、睡眠や排泄の状況を日々確認し、保護者と共有している。子どもの健康に関する保護者の疑問や不安があれば登降園時のやり取りなどをはじめとしてこまめに対応している。園内での感染症の発生状況や行政などからのお知らせ、健康維持に関する情報などを盛り込んだ毎月の保健だよりなどは、アプリケーション・ソフトウェアを利用して保護者に発信している。

8 評価項目8 保護者が安心して子育てをすることができるよう支援を行っている		評点(〇〇〇〇〇)	
評価	標準項目		
●あり ○なし	1. 保護者には、子育てや就労等の個々の事情に配慮して支援を行っている	○非該当	
●あり ○なし	2. 保護者同士が交流できる機会を設けている	○非該当	
●あり ○なし	3. 保護者と職員の信頼関係が深まるような取り組みをしている	○非該当	
●あり ○なし	4. 子どもの発達や育児などについて、保護者との共通認識を得る取り組みを行っている	○非該当	
●あり ○なし	5. 保護者の養育力向上のため、園の保育の活動への参加を促している	○非該当	
評価項目8の講評			
<p>保護者の事情に寄り添い子育てを応援する園の姿勢がある</p> <p>コロナ禍以前は保護者会にも多くの保護者の参加があり、充実した内容で行っていた。大きな行事も保護者の参加のもとで行っていたため、子どもの成長を喜び、分かち合う機会に恵まれていた。コロナ禍以降はこうした活動にも制約を伴うため、現在は感染症対策に配慮しつつ行えることを工夫して実施しつつ、情報の発信にも力を入れ、園での子どもの様子を積極的に伝えている。</p> <p>確固たる考えの下、保護者と連携して子どもの育ちを支えている</p> <p>子どもの成長・発達を援助していく上で、保護者と共通認識に立った上で進めていくことを大切にしている。例えば、スプーンやフォークの導入について、上持ちから下持ち、下持ちから三点持ちへと移行することを確認して箸の使用を家庭に伝えている。また、トイレトレーニングについては、「寝る時以外はパンツで過ごす」という覚悟が必要であることを説明し、保護者がトレーニングを開始する覚悟を待ってから始めるなどしている。</p>			
9 評価項目9 地域との連携のもとに子どもの生活の幅を広げるための取り組みを行っている		評点(〇〇)	
評価	標準項目		
●あり ○なし	1. 地域資源を活用し、子どもが多様な体験や交流ができるような機会を確保している	○非該当	
●あり ○なし	2. 園の行事に地域の人の参加を呼び掛けたり、地域の行事に参加する等、子どもが職員以外の人と交流できる機会を確保している	○非該当	
評価項目9の講評			
<p>日々の活動の中で外に出向く機会を設けている</p> <p>日常的に外に出歩く活動を積極的に取り入れている。近隣の方々と出会い、四季を通して自然の草花や生き物に触れて生命の息吹や気持ちの良い風を感じ、五感を働かせ、心身ともに健康に育っていくことを大切にしている。コロナ禍以降は敷地内にボルダリングの設備を導入するなど、外気に触れながら身体を動かせる環境を整えた。地域との関わりについては、状況が落ち着き次第、徐々に再開していく方針である。</p> <p>地域の社会資源とのかかわりを子どもの経験の広がり活かしている</p> <p>将来的な人材育成の意味を込めてインターンシップの受け入れに意欲を持っており、実現すれば子どもと他者とのかかわりという面でも広がりのある取り組みである。外部の人々とのかかわりという点では、高齢者施設との良好な関係を活かしている。消防署の協力を得て行った訓練では消防車が来てくれ、そのお礼として勤労感謝の意味で手紙を渡した。図書館を利用して本を借りることもしている。感染症対策に配慮しつつ可能な範囲で地域とのかかわりを維持し、広げている。</p>			

II サービス提供のプロセス項目(カテゴリー6-1~3、6-5~6)

No.	共通評価項目	
サブカテゴリー1		
1	サービス情報の提供	サブカテゴリー毎の 標準項目実施状況 5/5
評価項目1 利用希望者等に対してサービスの情報を提供している		評点(〇〇〇〇〇)
評価	標準項目	
<input checked="" type="radio"/> あり <input type="radio"/> なし	1. 利用希望者等が入手できる媒体で、事業所の情報を提供している	<input type="radio"/> 非該当
<input checked="" type="radio"/> あり <input type="radio"/> なし	2. 利用希望者等の特性を考慮し、提供する情報の表記や内容をわかりやすいものになっている	<input type="radio"/> 非該当
<input checked="" type="radio"/> あり <input type="radio"/> なし	3. 事業所の情報を、行政や関係機関等に提供している	<input type="radio"/> 非該当
<input checked="" type="radio"/> あり <input type="radio"/> なし	4. 利用希望者等の問い合わせや見学の要望があった場合には、個別の状況に応じて対応している	<input type="radio"/> 非該当
<input checked="" type="radio"/> あり <input type="radio"/> なし	5. 事業所のサービス利用が困難な場合には、理由を説明したうえで、他の相談先紹介など支援の必要に応じた対応をしている	<input type="radio"/> 非該当
サブカテゴリー1の講評		
<p>ホームページを通して園の概要や特色などを発信している</p> <p>園としてホームページを公開している。ここにアクセスすることで、園の概要や様々な特色、特に利用希望者のニーズに応えるものとして利用料金や見学、入園申込み手続きなどを案内している。大幅にリニューアルした現在のホームページでは、以前のものと比較して園の特徴についての説明がよりコンパクトにまとまっており、必要な情報を確認しやすい。</p> <p>「実りある見学」にするための工夫がある</p> <p>リニューアルしたホームページの大きな特色の一つが、「園内の3D見学」である。ページ上の画像を操作することで、園内の様子、設備の特色などを見ることが出来る。そしてリニューアル前と同様、ページを通して見学の申込を行うことが出来る。こうした条件を整えることで、当園の理念や方針、特色を踏まえて見学に訪れる方の割合が高くなり、実際の入園につながりやすいものとなっている。ソーシャルネットワークサービス(SNS)を活用した園の日々の様子の発信も、見学前に園の状況を知る上で功を奏している。</p>		

サブカテゴリ-2		サブカテゴリ毎の 標準項目実施状況	6/6
2	サービスの開始・終了時の対応		
評価項目1 サービスの開始にあたり保護者に説明し、同意を得ている		評点(〇〇〇)	
評価	標準項目		
<input checked="" type="radio"/> あり <input type="radio"/> なし	1. サービスの開始にあたり、基本的ルール、重要事項等を保護者の状況に応じて説明している		<input type="radio"/> 非該当
<input checked="" type="radio"/> あり <input type="radio"/> なし	2. サービス内容について、保護者の同意を得るようにしている		<input type="radio"/> 非該当
<input checked="" type="radio"/> あり <input type="radio"/> なし	3. サービスに関する説明の際に、保護者の意向を確認し、記録化している		<input type="radio"/> 非該当
評価項目2 サービスの開始及び終了の際に、環境変化に対応できるよう支援を行っている		評点(〇〇〇)	
評価	標準項目		
<input checked="" type="radio"/> あり <input type="radio"/> なし	1. サービス開始時に、子どもの保育に必要な個別事情や要望を決められた書式に記録し、把握している		<input type="radio"/> 非該当
<input checked="" type="radio"/> あり <input type="radio"/> なし	2. 利用開始直後には、子どもの不安やストレスが軽減されるように配慮している		<input type="radio"/> 非該当
<input checked="" type="radio"/> あり <input type="radio"/> なし	3. サービスの終了時には、子どもや保護者の不安を軽減し、支援の継続性に配慮した支援を行っている		<input type="radio"/> 非該当
サブカテゴリ-2の講評			
<p>個別の説明により利用上の留意事項の理解促進を図っている</p> <p>入園が決定した段階で、新入園児保護者を対象とした個別の面談を実施している。ここでは、契約書や重要事項説明書などをもとに、施設の基本理念や運営方針をはじめ、保育時間や保育料、利用上の留意事項、持ち物や衣類の取り扱い、緊急時の対応、相談・要望・苦情への対応などについて説明している。</p> <p>保育の実施に関わる基礎的な情報を網羅的に収集している</p> <p>入園にあたり、児童票を中心とする帳票を用いて、保育を実施する上で踏まえるべき基礎的な情報を網羅的に収集している。家庭状況や住居環境・園までの道順、かかりつけ医などのほか、発育の状況や既往歴、愛称や食事の好み、睡眠・排泄・着衣・言語・遊び・性格、園で注意して欲しいこと、家でのしつけなど、多角的に情報を把握して記録している。食物アレルギーの有無その他医療に関連する情報は、申し込み時に加えて面談の段階で再度確認している。</p>			

サブカテゴリ-3		サブカテゴリ毎の 標準項目実施状況	12/12
3 個別状況の記録と計画策定			
評価項目1 定められた手順に従ってアセスメント(情報収集、分析および課題設定)を行い、子どもの課題を個別のサービス場面ごとに明示している		評点(〇〇〇)	
評価	標準項目		
● あり ○ なし	1. 子どもの心身状況や生活状況等を、組織が定めた統一した様式によって記録し把握している	○ 非該当	
● あり ○ なし	2. 子どもや保護者のニーズや課題を明示する手続きを定め、記録している	○ 非該当	
● あり ○ なし	3. アセスメントの定期的見直しの時期と手順を定めている	○ 非該当	
評価項目2 全体的な計画や子どもの様子を踏まえた指導計画を作成している		評点(〇〇〇〇〇)	
評価	標準項目		
● あり ○ なし	1. 指導計画は、全体的な計画を踏まえて、養護(生命の保持・情緒の安定)と教育(健康・人間関係・環境・言葉・表現)の各領域を考慮して作成している	○ 非該当	
● あり ○ なし	2. 指導計画は、子どもの実態や子どもを取り巻く状況(保護者の意向を含む)の変化に即して、作成、見直しをしている	○ 非該当	
● あり ○ なし	3. 個別的な計画が必要な子どもに対し、子どもの状況(年齢・発達の状況など)に応じて、個別的な計画の作成、見直しをしている	○ 非該当	
● あり ○ なし	4. 指導計画を保護者にわかりやすく説明している	○ 非該当	
● あり ○ なし	5. 指導計画は、見直しの時期・手順等の基準を定め、必要に応じて見直しをしている	○ 非該当	
評価項目3 子どもに関する記録が行われ、管理体制を確立している		評点(〇〇)	
評価	標準項目		
● あり ○ なし	1. 子ども一人ひとりに関する必要な情報を記載するしくみがある	○ 非該当	
● あり ○ なし	2. 指導計画に沿った具体的な保育内容と、その結果子どもの状態がどのように推移したのかについて具体的に記録している	○ 非該当	
評価項目4 子どもの状況等に関する情報を職員間で共有化している		評点(〇〇)	
評価	標準項目		
● あり ○ なし	1. 指導計画の内容や個人の記録を、保育を担当する職員すべてが共有し、活用している	○ 非該当	
● あり ○ なし	2. 申し送り・引継ぎ等により、子どもや保護者の状況に変化があった場合の情報を職員間で共有している	○ 非該当	
サブカテゴリ-3の講評			
成長の見通しに立って計画を作成し、保育を実践している 園として進めていく保育の内容・方向性について、全体的な計画としてまとめている。その上で、年齢ごとに指導計画を作成している。計画は、養護(生命の保持・情緒の安定)と教育(健康・人間関係・環境・言葉・表現)の各要素に応じた項目立てを行い、年齢別に目標設定を行っている。これをもとに、月・週・日ごとの短期的な指導計画を作成している。また、0~2歳児クラスの子どもについては、一人ひとりの特性を踏まえた個別の計画を作成している。			
個々の子どもの成長の様子や援助内容の共有化を図っている 個別指導計画に基づく日々の保育の実施内容は、日誌に記録している。また、1ヶ月の保育のねらいや実施内容、振り返りは、個人記録に毎月まとめている。その上で、保育実践の裏付けとなる記録類をソフトウェアを活用して職員全体で共有するとともに、職員間の共通理解が必要な事項は昼礼や会議を通して確認・周知を図っている。			

サブカテゴリ-5		サブカテゴリ毎の 標準項目実施状況	5/5
5	プライバシーの保護等個人の尊厳の尊重		
評価項目1 子どものプライバシー保護を徹底している		評点(〇〇)	
評価	標準項目		
● あり ○ なし	1. 子どもに関する情報(事項)を外部とやりとりする必要が生じた場合には、保護者の同意を得るようにしている	○ 非該当	
● あり ○ なし	2. 子どもの羞恥心に配慮した保育を行っている	○ 非該当	
評価項目2 サービスの実施にあたり、子どもの権利を守り、子どもの意思を尊重している		評点(〇〇〇)	
評価	標準項目		
● あり ○ なし	1. 日常の保育の中で子ども一人ひとりを尊重している	○ 非該当	
● あり ○ なし	2. 子どもと保護者の価値観や生活習慣に配慮した保育を行っている	○ 非該当	
● あり ○ なし	3. 虐待防止や育児困難家庭への支援に向けて、職員の勉強会・研修会を実施し理解を深めている	○ 非該当	
サブカテゴリ-5の講評			
個人情報・プライバシー・羞恥心への配慮を徹底している 利用開始(契約)時に法人・園としての個人情報の適切な取り扱いについて説明し、ホームページなどにおける写真の掲載などについて保護者の意向を確認し、同意を得た上で利用している。羞恥心への配慮の面では、おむつ交換の際はトイレ内で行い、お漏らしがあればさり気ない着替えを支援し、排泄の自立後は個室のトイレを使用している。着替えの際は肌の露出を少なくし、「脱いだら着る」ということを徹底している。プールの際はテントに設置して周囲からの視線を遮っている。			
子どもの心に寄り添い、気持ちや価値観を尊重している 入園に際し、子育てに関する保護者の思いを確認している。また、日々の関わりを通して、子ども一人ひとりの価値観や思いなどを把握している。それらを尊重しながら日々の保育にあたっている。子どもの呼称は「ちゃん」「くん」を基本としている。また、日常の各場面で無理強いせず、子どもの気持ちを大切に、見守る、待つ、選択肢を示すなど、それぞれの特性や発達状況を捉えて適切なかかわりを持っている。			

サブカテゴリ-6		サブカテゴリ毎の 標準項目実施状況	5/5
6 事業所業務の標準化			
評価項目1 手引書等を整備し、事業所業務の標準化を図るための取り組みをしている		評点(〇〇〇)	
評価	標準項目		
<input checked="" type="radio"/> あり <input type="radio"/> なし	1. 手引書(基準書、手順書、マニュアル)等で、事業所が提供しているサービスの基本事項や手順等を明確にしている		<input type="radio"/> 非該当
<input checked="" type="radio"/> あり <input type="radio"/> なし	2. 提供しているサービスが定められた基本事項や手順等に沿っているかどうか定期的に点検・見直しをしている		<input type="radio"/> 非該当
<input checked="" type="radio"/> あり <input type="radio"/> なし	3. 職員は、わからないことが起きた際や業務点検の手段として、日常的に手引書等を活用している		<input type="radio"/> 非該当
評価項目2 サービスの向上をめざして、事業所の標準的な業務水準を見直す取り組みをしている		評点(〇〇)	
評価	標準項目		
<input checked="" type="radio"/> あり <input type="radio"/> なし	1. 提供しているサービスの基本事項や手順等は変更の時期や見直しの基準が定められている		<input type="radio"/> 非該当
<input checked="" type="radio"/> あり <input type="radio"/> なし	2. 提供しているサービスの基本事項や手順等の見直しにあたり、職員や保護者等からの意見や提案、子どもの様子を反映するようにしている		<input type="radio"/> 非該当
サブカテゴリ-6の講評			
<p>標準化を図る工夫がある</p> <p>健康・衛生・危機管理など、特に優先度の高い分野について、独自の手順書や行政から示された手引書などを活用することで、組織としての業務の基本事項や手順を示している。また、業務上の各種書類にひな型を用意し、各職員に提供している。これにより、記載内容のバラつきを防ぐとともに、各自の書く力を養っている。園としては、踏まえるべき基本事項を示した上で、職員各自の自主性や主体性の発揮を奨励している。</p> <p>ソフトウェアを活用して即時の指導を行い、絶えず業務水準の維持・向上を図っている</p> <p>ほとんどの帳票類をソフトウェアを活用して作成・共有しているため、職員は園長の助言を受けて迅速に修正することが出来る。こうした日々の指導を通して、職員各自の力量および組織全体としての業務水準の向上を図っている。</p>			

調査対象

複数児利用世帯は最低年齢児1人を対象として実施世帯数を絞り、28世帯を対象に実施。

調査方法

ウェブ回答システムを活用。機関が作成したQRコード記載の案内を事業所を通して各家庭に配布。各家庭においてそれを読み込んだ上で、個別に匿名で回答。

利用者総数

32

利用者家族総数(世帯)

28

共通評価項目による調査対象者数

28

共通評価項目による調査の有効回答者数

13

利用者家族総数に対する回答者割合(%)

46.4

利用者調査全体のコメント

○総合的な満足

「満足」85%、「まあまあ満足」15%、あわせて100%という結果が示された(3年前の評価受審時の結果は「満足」93%、「まあまあ満足」7%、計100%)。

○個々の質問項目の状況

園との信頼関係など、複数の項目において100%の満足度が示された。

一部、相対的に低い満足度が示されたものもあるが、60%を下回ることはなかった。

利用者調査結果

共通評価項目 コメント	実数			
	はい	どちらとも いえない	いいえ	無回答 非該当
1. 保育所での活動は、子どもの心身の発達に役立っているか	12	0	1	0
回答者の92%が「はい」と回答した。				
2. 保育所での活動は、子どもが興味や関心を持って行えるようになっているか	12	0	1	0
回答者の92%が「はい」と回答した。				
3. 提供される食事は、子どもの状況に配慮されているか	13	0	0	0
回答者全員が「はい」と回答した。				

4. 保育所の生活で身近な自然や社会と十分関わっているか	11	1	0	1
回答者の84%が「はい」と回答した。				
5. 保育時間の変更は、保護者の状況に柔軟に対応されているか	12	1	0	0
回答者の92%が「はい」と回答した。				
6. 安全対策が十分取られていると思うか	12	1	0	0
回答者の92%が「はい」と回答した。				
7. 行事日程の設定は、保護者の状況に対する配慮は十分か	12	1	0	0
回答者の92%が「はい」と回答した。				
8. 子どもの保育について家庭と保育所に信頼関係があるか	13	0	0	0
回答者全員が「はい」と回答した。				
9. 施設内の清掃、整理整頓は行き届いているか	11	1	0	1
回答者の84%が「はい」と回答した。				
10. 職員の接遇・態度は適切か	13	0	0	0
回答者全員が「はい」と回答した。				

11. 病気やけがをした際の職員の対応は信頼できるか	10	1	0	2
回答者の77%が「はい」と回答した。				
12. 子ども同士のトラブルに関する対応は信頼できるか	13	0	0	0
回答者全員が「はい」と回答した。				
13. 子どもの気持ちを尊重した対応がされているか	8	4	1	0
回答者の62%が「はい」と回答した。				
14. 子どもと保護者のプライバシーは守られているか	12	0	1	0
回答者の92%が「はい」と回答した。				
15. 保育内容に関する職員の説明はわかりやすいか	13	0	0	0
回答者全員が「はい」と回答した。				
16. 利用者の不満や要望は対応されているか	9	0	2	2
回答者の70%が「はい」と回答した。				
17. 外部の苦情窓口(行政や第三者委員等)にも相談できることを伝えられているか	8	3	2	0
回答者の62%が「はい」と回答した。				

全体の講評について

○良い点、改善点、それぞれ3点に絞り込む

良い点①（佐藤）

園長はすすんで話を聴く姿勢を保ち、相談しやすい環境を作り、職員が自信を持ち意欲と働き甲斐のあるチームワークが作られている

園長は職員一人ひとりが力を最大限発揮できるよう常に話を聴く姿勢を保ち、相談しやすい職場環境を大切にしている。保育室はワンフロアで園長は常に園全体を把握し、年間で決めてある月の歌や手遊びは保育者が園長に相談の上自由に決定している。毎月の制作は年齢毎の出来る作業を基に園長と相談して内容を決定している。園長は職員が自分で考えるきっかけになるよう気づきを与え、先輩職員も後輩を教えることによって自らも学ぶ機会になり、互いに価値観を共有して高い信頼関係が生まれている。意欲と働き甲斐のあるチームワークが作られている。

良い点②（佐藤）

「子どもの表現の自由を奪わない」という考えの下、子どもからの発信を引き出して自主性・自発性を育てている

全ての子どもに対し気持ちに思いを寄せ、泣いている子どもに対しても「泣き止んだら終わり」ではなく、年齢の低い子どもに対しても「どうして泣いていたのか」言葉を引き出す問いかけをし、また表情・態度から汲み取り、気持ちを表現できるよう支援している。年齢が上がるに従い、大人が先回りせず子どもからの発信を待っている。この考えが、子どもの意見を尊重し、子どもの自由な発想を引き出すことにつながっている。3, 4, 5歳児は混合グループでの協同製作にも取り組み、自分の考えを伝える、仲間に考えに耳を傾けるなどの経験を重ねている。

良い点③（松村）

運動や外国語などを切り口として子どもの健やかな成長を援助している

子どもの心身の健やかな成長をより効果的に援助していくために、外部講師を活用した体操教室を導入している。また、保護者のニーズも高い英語に触れる機会についても、隔週で取り入れている。いずれも心身の発達や身体操作能力の向上、早期の外国語体験といった一時的なねらいがあるものの、子ども同士でふれあう、話を聞く、指示を聞いて行動に移す、集中するなど、子どもの経験を豊かなものにし、感性や社会性を育むものとなっている。

良い点④（松村）

園庭環境の整備を行い、思い切り身体を動かせる場を設定した

コロナ禍という状況下で園外での活動が難しくなったことを受け、園内でいかにして活発な遊びの場を提供していくかを検討した。そして、敷地内に様々な遊具を導入した。雲梯や鉄棒といったものをはじめ、滑り台、丸太梯子などのほか、ボルダリングの設備も設定している。こうした環境の充実策は「思い切り遊びたい」という子どもの思いに応えるものであり、様々な遊びを通して身体の使い方や力加減を知り、身のこなしを上手く行っていけるようになることにつながる。当園に新たな特色を加える取り組みである。

課題点①（佐藤）

子どもが不安なく小学校生活をスタートしていけるよう、職員全員の知識・技術を向上させていく

開園以来園長を中心に保護者との信頼関係構築に尽力し、子どもを卒園させたいという保護者が増えている。子どもの将来を見据え、特に不安なく小学校生活をスタートできるよう、保護者と連携して保育を提供している。学校生活で求められる姿・力について情報を収集し、机上活動を重視しトイレトレーニングが終了した3歳児からワークを開始し、4歳児はひらがな・かたかな・時計など、5歳児はより知育的ワークに取り組んでいる。これらの活動を園の強みとし、内容の充実を図るために、職員全員の知識・技術の向上を図っていくことを課題としている。

課題点②（松村）

いかにして後継者の育成を図っていくか、検討していく

園長のもと、保育の要である副主任2名を配置し、運営・保育にあたっている。特に園長は「人としての土台作り」にあたる乳幼児期の重要性を踏まえて子どもとの関わりを持ち、またそうした姿を通して職員とも視点や認識を共有していけるよう取り組んでいる。「子どもの最善の利益」をあらゆる場面で追求しており、業務の密度は濃い。そのため、実践を通じた職員教育も現園長であるがゆえに行い得ているともいえる。今後の当園の取り組みの継続、着実な発展という意味では、いかにして後継者の育成を図っていくか、今後も検討していくことを課題としている。

課題点③（松村）

様々な取り組みの根底にある価値の顕在化に取り組む

園の所在する武蔵野市における待機児童数がゼロとなった現在、保育施設はこれまで以上に「選ばれる」ための工夫が求められることとなっている。当園はこれまでも、子ども、保護者、そして働き手のニーズを踏まえて様々な取り組みに着手し、形にしてきた。それゆえ、「特色」として挙げうる取り組みはいくつもある。今後は、それらの根底にある価値をより一層顕在化させ、打ち出し、将来の利用者や働き手に訴求していけるよう取り組んでいくことを課題としている。